

新古今 歳時記

平成 27 年 9 月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。

9月と言えば阿波おどりを終え、徳島市内は普段の静けさに戻る。その代わり、徳島の県西や県南では、秋祭りが連続して開催される。下の写真は9月19日予定の海上自衛隊・基地祭の様子。



写真：海上自衛隊 基地祭（松茂町）

祭・イベント



写真：木岐のかかしコンテスト（木岐まちづくり協議会）

季節の風物詩

だいこんの播種が始まる
なし豊水の収穫が盛ん

なると金時の収穫が始まる
9月末まで巨峰などのぶどう狩りが楽しめる

秋刀魚が出回る



昔 64 年前の連載より

野分のあとのハギやキキョウがいじらしい虫の声に暮れかかると、徳島市内では鮎喰川の堤園瀬の川原、西塚あたりへわざわざつえをひいたもので、だがいまは虫籠に虫を鳴かせて売りに来る姿も見つけない。

秋の情景が深まるとこの十五日は名月、室町時代から民衆の行事となつて、月にイモ、団子、ススキなどを供える風習はいまも変わりは無いが、旧藩時代は武家と町人がなごやかにまとい、俳句をよんで楽しんだのが眉山の中腹、三重の塔から二本杉へ曲がる

キを活けるなど亭主の奥ゆかしさがしのばれ、特に三宣亭と東山亭には出し掛けの座敷を設け、ここから海を真向うに月の出が拝めるといので、前日から予約の申し込みをつけていたくらい。客は徹夜して宴を張り、芸妓の忍び駒がボンとなる山の鐘に東が日むくまで、あだな音じめをきかしていた。山の月は眉山、川の見は中洲から三ツ頭まで屋形舟を浮べて舟遊さんをする。

新町川から津田あたりへ提灯

のあかりが水にゆれて行交いする月見舟の風情は、十五夜の景観をたまらなく印象づけていたが、大正期に入って貸ボートが盛んになってから、十五夜の遊さん舟は全然あとを絶つてしまった。その代わり夏は川祭と称して毎年打揚煙火を新町川で催すこと

になつてはいるが、同じ花火でも九月十四日の晩に立江八幡で催す花火の大寄せは、きょうを晴れと腕によりをかけての力作で、豪壮な吹上げ花火がつぎつぎに中天をとどろかし、まばゆいような色火の芸術をくりひろげた。

昭和26年9月 徳島新聞連載
阿波歳時記 9月の巻より抜粋
著者：絵師 郷土芸能研究家 林鼓浪（1887～1965）

新暦・旧暦

13 日	12 土	11 金	10 木	9 水	8 火	7 月	6 日	5 土	4 金	3 木	2 水	1 火	9 月
みずのえ 二黒友引 たつ 旧 8.1	かのと 三碧赤口 う 旧 7.30	かのえ 四緑大安 とら 旧 7.29	つちのと 五黄仏滅 うし 旧 7.28	つちのえ 六白先負 ね 旧 7.27	ひのと 七赤友引 い 旧 7.26	ひのえ 八白先勝 いぬ 旧 7.25	きのと 九紫赤口 とり 旧 7.24	きのえ 一白大安 さる 旧 7.23	みずのと 二黒仏滅 ひつじ 旧 7.22	みずのえ 三碧先負 うま 旧 7.21	かのと 四緑友引 み 旧 7.20	かのえ 五黄先勝 たつ 旧 7.19	新暦・旧暦

雑節・祝日

防災の日
二百十日
禾乃登（こもつみのる）

白露（草花に露が見える）
菊（重陽）の節句
救急の日

二百二十日
三りんぼつ
公衆電話の日

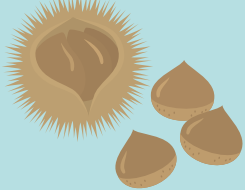
鵲鳴（せきれいなく）

下弦

新月

中旬予定 椿泊だらだら祭り
（阿南市椿泊町）

13～14日予定 西の地岡崎神社
秋まつり（美波町西の地）

1 木	30 水	29 火	28 月	27 日	26 土	25 金	24 木	23 水	22 火	21 月	20 日	19 土	18 金	17 木	16 水	15 火	14 月
二黒友引 かのえ いぬ 旧 8.19	三碧先勝 つちのと とり 旧 8.18	四緑赤口 つちのと さる 旧 8.17	五黄大安 ひのと ひつじ 旧 8.16	六白仏滅 ひのえ うま 旧 8.15	七赤先負 きのと み 旧 8.14	八白友引 きのえ たつ 旧 8.13	九紫先勝 みずのと う 旧 8.12	一白赤口 みずのえ とら 旧 8.11	二黒大安 かのと うし 旧 8.10	三碧仏滅 かのえ ね 旧 8.9	四緑先負 つちのと い 旧 8.8	五黄友引 つちのえ いぬ 旧 8.7	六白先勝 ひのと とり 旧 8.6	七赤赤口 ひのえ さる 旧 8.5	八白大安 きのと ひつじ 旧 8.4	九紫仏滅 きのえ うま 旧 8.3	一白先負 みずのと み 旧 8.2
共同募金			蟄虫坏戸 (むしかくれてとをふさぐ) 満月	十五夜	秋の彼岸明け		結核予防週間 雷乃収声 (かみなりこえをおさむ)	秋分の日 三りんぼつ	敬老の日 秋の全国交通安全運動 上弦	国民の休日	秋の彼岸入り 動物愛護週間	社日	玄鳥去(つばめさる)		老人の日 老人週間		
				27日予定 栗枝渡八幡神社例祭 (三好市東祖谷字栗枝渡)	26、27日 穴喰八幡神社祭り (海陽町久保)				中旬予定 三処神社(聖神社) 秋祭り (三好市東祖谷字落合)	19、20日 立江八幡神社例大祭 奉納煙火は19日 (小松島市)	19日予定 海上自衛隊・基地祭 (松茂町)	中旬予定 宮内神社 秋まつり (美波町阿部)	中旬予定 西由岐八幡神社 秋まつり (美波町西由岐)	中旬予定 木岐八幡神社 秋まつり (美波町木岐)			
				栗狩りの季節			なし新高の収穫が盛ん										

今 秋まつり

故林鼓浪の連載「阿波歳時記」の九月分を右頁に紹介した。今年48歳になる著者の私にとって、64年前に昔を懐かしんで書かれた鼓浪の記事にピンとこないことも多い。特に今回は知らないスポーツや祭りが多く、大滝山のことと思うが「眉山中腹、三重の塔」や「三宣亭と東山亭」などは今、存在していないようだ。その中で「立江八幡神社の花火」は、現在も続いている。残念ながら私はその祭りに行つたことは無いが、ウェブの動画やブログなどで様子を伺うことができた。

徳島の場合、8月のお盆にクライマックスの「阿波おどり」で燃え尽きる県民性があったりと、9月の祭りやイベントは年間の中で最も少ない月かもしれない。そんな中で、県西と県南部の山村や漁村では、各地区ゆかりの神社の秋祭りがあつた。今年の三好市東祖谷の栗枝渡神社の例大祭では、嬉しいことに猿田彦役に著者が抜擢され、祭りを盛り上げる予定だ。また、県南においても2年前に一度取材をしたところのある「木岐八幡神社秋まつり」



写真：木岐八幡神社の秋まつり（木岐まちづくり協議会）

は海部や阿南の漁村で毎年「美波町海の連続秋まつり」の一つとして9月中旬に開催され、壮年神輿、こども神輿、露払いの薙刀、獅子舞、鬼の練り歩きと町ぐるみで祭りを盛り上げている。「連続秋まつり」とは、この美波町内において、9月初旬の田井・白鳥神社の祭りから始まり、西の地、木岐、西田岐、阿部、志和岐、日和佐、伊座利の各漁村の神社で毎週のごとく秋祭りが開催される。またその近辺の海陽町、牟岐町、阿南市でも祭りが連続して開催されるので、この9月のどこかで県南西部へ訪ねてみてはいかがだろうか。



取材デザイン編集
上野昇 (のちゃん)
四国大学
生活科学部講師